

令和 7 年度使用中学校教科用図書
に関する調査報告書

教科名 美 術

(様式1)

教科用図書調査に関する報告書

教科	美術
----	----

発行者 略 称	発行者 番 号	教科書の 記号・番号	教科書名	調査結果の概要
開隆堂	9	美術 009-72 009-82	美術1 美術2・3	・教科書の表紙の鮮やかなタイルやゴッホの作品の表面のマチエールなどの筆跡を見て、触って、楽しめる内容となっている。 ・美術1（P2～5）、冒頭の「図画工作から美術」では小学校で学んできたことの積み上げとして、どのような学習をしていくのかなどのめあてがわかりやすく整理されている。 ・美術1（P36～43、P64～66）、構成の美しさや色の性質について整理されており、デザイン等の授業で作品の発想や表現につなげることができる。 ・美術2・3（P14～21）、「自分と向き合う」から「私がイメージする世界」では、生徒作品を含め、制作のヒントが工夫されており、主体的で自由に発想や構想を膨らませることができる構成となっている。 ・美術2・3（P76～87）、「生活を楽しく心地よく」では、様々な視点で作品を紹介することで、身近なものに対して美しさや関心を持つことができる。 ・参考となる作品や生徒作品が充実している反面、発想や構想に関する内容が少なく、作品制作における完成までのイメージがつかみにくい。 ・各ページの作品や写真、説明など情報量が多く、視線誘導的なレイアウトに工夫が必要である。

発行者 略 称	発行者 番 号	教 科 書 の 記号・番号	教 科 書 名	調 査 結 果 の 概 要
光 村	38	美術 038-72 038-73 038-82	美術 1 美術 1 資料 美術 2・3	・各所に吹き出しで生徒が主体的に考えたり話し合ったりできるように工夫されており、「みんなの工夫」では発想や構想に加え、技術的内容にも触れられているので、作品制作のはじめから完成までの流れをイメージしやすい。 ・デジタルコンテンツの資料の種類が豊富でワークシートなども活用できることから、タブレットを使用してアイデアスケッチをしながら制作を進めることができる内容である。 ・美術 2・3 (P27～42)、浮世絵などの質感が感じられるように工夫して印刷されている。さらに、「ゴッホと浮世絵」では浮世絵と印象派の関係にも触れ、ジャポニズムの解説についてもデジタルコンテンツでわかりやすく解説している。 ・美術 2・3、誰もが知る有名な作品の作者や制作の風景や心情について詳しく掲載され、作品への思いや学習の内容が深まるように工夫されている。 ・事故防止のために、使用する材料や用具、活動場所における安全や衛生面について、美術 1、資料や学習を支える資料一覧等においてデジタルコンテンツ等で詳しく説明するなどの配慮が見受けられる。 ・美術 1、文字で楽しく伝えるではレタリングに関する内容が無く、美術 1、資料でまとめて掲載されているが、制作や授業の流れをイメージしにくい。 ・美術 2・3 の章末の学びの資料では美術史を扱っているが、時代と美術活動の結びつきや美術様式のつながりについての内容が乏しい。また、(P12～15)「最後の晚餐」の鑑賞ではレオナルド・ダ・ヴィンチが作品に込めた思いや技法についての解説に乏しく、ルネサンスについて知識理解を深められる工夫が必要である。

発行者 略 称	発行者 番 号	教科書の 記号・番号	教科書名	調査結果の概要
日 文	116	美術 116-72 116-83 116-84	美術 1 美術との出会い 美術 2・3 上 学びの実感と深まり 美術 2・3 下 学びの探求と未来	・美術 1 (P40～47)、「文字が生み出すイメージ」では、レタリングについて簡単に触れられているが、文字のもつ伝達機能について詳しく取り上げられており、言葉のイメージを形にするように工夫されている。また、伝えるという観点から、「形や色で伝えるシンボルマーク」へ系統的につながっていると、作品制作における発想や表現に広がり期待できる内容となっている。 ・美術 2・3 (P24～31)、「浮世絵っておもしろい」では有名な浮世絵の作品をバランスよく掲載している。また浮世絵づくりを支える職人たちの役割について説明があり、江戸時代の庶民の生活について興味関心を持つことのできる内容である。さらに、「日本文化との出会い」では、のちに影響を与えたクリムトやミュシャの作品を紹介することで、日本の文化への誇りと理解を深めることができる。 ・美術 2・3 上の章末にある年表では年代ごとに代表的な作品が掲載されており、時代との関連性や特徴についても簡潔にまとめられている。また、各単元における注目してもらいたい作品を他の作品より大きくするなど掲載の仕方に工夫がある。 ・章末の学びを支える資料で、色彩や技法などがまとめられているが、各単元における制作や授業の流れについてイメージしにくい。 ・美術 2・3 上 (P32～49)、「デザインや工芸など」では、身近な生活の中でデザインや工芸の美しさや機能などについての内容にまとまりがなく、発想や構想を膨らませにくい。

(様式2)

教科用図書調査に関する報告書

美術

観点別評価

「◎」 優れている

「○」 標準的

「△」 やや劣る

選定の観点	選定の視点		開隆堂	光村	日文
学習指導要領との関連	1	学習指導要領に示されている美術科の目標達成に結び付く内容になっているか。	◎	○	○
	2	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた工夫がされているか。	○	◎	○
	3	「知識及び技能」の習得と「思考力・判断力・表現力等」の育成をバランスよく図るための工夫がされているか。	○	○	△
	4	言語活動の定着を図るための配慮がなされているか。	○	○	○
	5	学習への興味・関心を高めるとともに、学びを深めるために、デジタルコンテンツを適切に活用することができる配慮がなされているか。	○	◎	○
	6	SDGs など、今日的課題が取り上げられ、生徒が興味・関心を持ち、主体的に学ぶとともに発展的な学習も行うことができる工夫がされているか。	○	○	◎
内容	1	美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育むとともに、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を育む工夫がなされているか。	◎	◎	○
	2	表現及び鑑賞の活動を通して、「共通事項」を身に付けることができるよう、配慮がなされているか。	○	△	○
	3	発想や構想したことを基に、材料や用具などを生かして工夫し、創造的に表すことができるような内容となっているか。	△	○	○
	4	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、生活や社会を心豊かにする美術の働きなどについて考えることができる内容となっているか。	◎	○	△
	5	我が国及び諸外国の作品における独特な表現形式など、多様な表現方法を活用できるような工夫がなされているか。	○	○	◎
	6	互いのよさや個性などを認め、尊重し合うとともに、互いの個性を生かし合い協力して創造する喜びを味わわせる工夫がなされているか。	○	○	○
	7	事故防止のために、使用する材料や用具、活動場所における安全や衛生面などに配慮した内容となっているか。	○	◎	○
構成・分量	1	内容の量と学習時間が適切に配当されているか。	○	○	○
	2	生徒の発達段階に即し、系統的、発展的に構成されているか。	○	△	○
表記・表現	1	表記や表現について、文書や挿絵、写真等の使用が適切であるか。	△	○	◎
	2	文字の大きさ、字間、行間などは適切であるか。	○	○	○
	3	ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、色の使用、紙面の構成などについて、配慮されているか。	○	○	○